

### 第3学年 図画工作科 授業構想シート

授業者 西原 有香莉

本実践の主張点	液体粘土を不織布に浸み込ませて可塑性をもたせることで、自他の表現や活動の意味や価値を視覚的・触覚的に実感することを促し、イメージ創造の表現主題と技法両面からの探究力を育むことができるだろう。
---------	---

#### 1. 単元名 とろ〜りねんどの魔法をかけよう

#### 2. 3年A組の子ども

本学級の子どもは、「やってみたい」「できるようにになりたい」という思いが強く、新しいことに対して意欲的である。自分なりの表現を生み出せた時には、「こんなことできたよ!」ととてもうれしそうに、生き生きと活動する姿も見られる。それは、自分なりの意味や価値を見出している瞬間の表れであり、その瞬間は個々の感覚による感性に支えられていると考える。このような感覚世界を楽しむ発達段階にいる子どもが、発想豊かに、さらに、「こうしたい」という思いを持ちながら活動する経験を積み重ねることで、後の創造的な活動により一層の広がりや深まりを与えると考えられる。

#### 3. 何ができるようになるか

探究力	省察性
<ul style="list-style-type: none"> <li>全身の感覚を働かせて素材の感触を味わい特性を理解することで、イメージを膨らませ、新たな表し方を考えつくり出そうとする力（創造力）</li> <li>多様な造形活動を試みる中で、想像力を働かせて自ら表現主題を設定する力（課題設定力）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己の対象への働きかけによる素材の変化や、自身へもたらされた新たな感覚を、敏感に感じ取る力（創造力を支える省察性）</li> <li>自他の作品を多様に捉えなおし、持続的な創造活動へと自らを向けていく力（創造力を支える省察性）</li> <li>“かたち”を造形的な視点で捉え、イメージを膨らませたり、言語によって明確にさせたりする力（課題設定力を支える省察性）</li> </ul>

#### 4. 何を学ぶのか

##### ① 単元の目標

- 液体粘土の感触を味わうと共にその特質を体験的に理解する（知識・技能）
- 活動の中で生み出され続ける様々な“かたち”から、立体による造形活動を多様に試みる（思考力・判断力・表現力）
- 自らの表現主題を形成すると共に、その実現に向かおうとする（主体的に学習に取り組む態度）

##### ② 教材の価値

液体粘土のどろっとした感触は、泥遊びで体験した感覚を彷彿させる。この感触は、本題材に挑む子どもたちに心地よい感覚を与えるだろう。この液体粘土を不織布にしみこませ、時間を置くことで、どろどろとしていた液体粘土や柔らかな不織布は固まり、質の変化が見られる。この素材の変容を目の当たりにすることは、同時に自らの素材への働きかけを認識することにもなる。身体感覚を通じた素材体験が、子どもたちの豊かな感性に揺さぶりをかけ、さらに新しい表現に向かって活動しようとする意欲を掻き立てることをねらう。また、不織布に浸み込ませることで可塑性をもつことを活かし、型取りをする。それぞれに個性的な“かたち”が生み出され、立体になったそれらのかたちからさらに立体を作る。その“かたち”を並べたり積み重ねたりすることで、子どもたちの「こうしたい」という気持ちを刺激し、自ら課題設定を行い始めることを予想している。

③学年間・教科間のつながり

図画工作科では、1年生の頃より油粘土による造形活動を経験している。手などの感覚を働かせて造形活動に挑むことや、自らの素材への働きかけが“かたち”として残るという可塑性の体験が、本題材では発展的に行われる。また、CHANGEで「和菓子」について学びを進めており、本題材における“形”を捉える見方が、和菓子の細やかな表現に気付くことに生きるだろう。

5. どのように学ぶのか

①働かせたい思考スキル

くらべる   
  つなげる   
  まとめる   
  広げる   
  予想する   
  見方を変える

②学習内容を理解し、資質・能力を育成するための学習過程

<p>単元計画（全7時間） 本時5/7</p> <p>1次 とろ〜りねんどの魔法を知ろう</p> <p style="padding-left: 20px;">①とろ〜りねんどの魔法を体験しよう</p> <p style="padding-left: 20px;">②とろ〜りねんどの魔法でいろんな“かたち”をつくってみよう</p> <p>2次 とろ〜りねんどの魔法で、</p> <p style="padding-left: 40px;">いろんな“かたち”をつくらう</p> <p style="padding-left: 20px;">①積み木を型取りしてみよう</p> <p style="padding-left: 20px;">②もっともっと魔法をつかおう</p> <p style="padding-left: 40px;">“かたち”の宝箱に集めていこう</p> <p style="padding-left: 20px;">③魔法のできた“かたち”大集合！</p> <p style="padding-left: 40px;">組む・重ねる・つなげる…何ができるかな？</p> <p>3次 “かたち”ワールドをつくらう</p> <p style="padding-left: 20px;">①どこにかざる？どんなにかざる？</p> <p style="padding-left: 20px;">②“かたち”の世界へようこそ！</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="text-align: center;">単元における授業づくりのしかけ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">探究力を育む</td> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 造形遊びによる素材体験から立体造形へと発展的な題材構成をすることで、後半の立体的な造形活動において自分なりの表現のより深い探究を支える。</li> <li>・ つくり変え可能であり可塑性がある液体粘土の使用により、自分なりの表現の追究を目指した試行錯誤を促す。</li> <li>・ 広い空間の場を設定することで、より豊かで自由な発想によるイメージの実現を支える。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">省察性を育む</td> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 型取りし乾燥することで素材が変化していく一連の制作過程の体験によって、ものづくりにおける自己の活動の意味の実感を深める。</li> <li>・ 制作の各段階で鑑賞活動を行うことで、表現主題の形成を促すと共に、その探究のための技法や造形操作の方法の様々な獲得を広げる。</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>		単元における授業づくりのしかけ	探究力を育む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 造形遊びによる素材体験から立体造形へと発展的な題材構成をすることで、後半の立体的な造形活動において自分なりの表現のより深い探究を支える。</li> <li>・ つくり変え可能であり可塑性がある液体粘土の使用により、自分なりの表現の追究を目指した試行錯誤を促す。</li> <li>・ 広い空間の場を設定することで、より豊かで自由な発想によるイメージの実現を支える。</li> </ul>	省察性を育む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 型取りし乾燥することで素材が変化していく一連の制作過程の体験によって、ものづくりにおける自己の活動の意味の実感を深める。</li> <li>・ 制作の各段階で鑑賞活動を行うことで、表現主題の形成を促すと共に、その探究のための技法や造形操作の方法の様々な獲得を広げる。</li> </ul>
	単元における授業づくりのしかけ						
探究力を育む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 造形遊びによる素材体験から立体造形へと発展的な題材構成をすることで、後半の立体的な造形活動において自分なりの表現のより深い探究を支える。</li> <li>・ つくり変え可能であり可塑性がある液体粘土の使用により、自分なりの表現の追究を目指した試行錯誤を促す。</li> <li>・ 広い空間の場を設定することで、より豊かで自由な発想によるイメージの実現を支える。</li> </ul>						
省察性を育む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 型取りし乾燥することで素材が変化していく一連の制作過程の体験によって、ものづくりにおける自己の活動の意味の実感を深める。</li> <li>・ 制作の各段階で鑑賞活動を行うことで、表現主題の形成を促すと共に、その探究のための技法や造形操作の方法の様々な獲得を広げる。</li> </ul>						

6. 何が身に付いたか

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 液体粘土の特質を体験的に理解し、工夫して“かたち”をつくり出している。</li> <li>・ 自らの主題に応じて、並べる・積む、切る・折るなどの造形操作を多様に行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 素材にかかわる中で、イメージを広げ、様々な表し方を考えている。</li> <li>・ “かたち”の組み合わせによる表現の多様さに気づき、表したいことに応じて様々な造形操作を試みている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 液体粘土の感触や特質を感じ、素材の変容を楽しみながら、立体造形を行っている。</li> </ul>